



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

クウェイト：ハーシミー・イラク副大統領の訪問 (4月15日付アンバー紙)

クウェイトを訪問したハーシミー・イラク副大統領とのインタビュー記事。

1. 訪問目的：自分は、自国との協議及び意見交換の要請を受けて諸国を歴訪し、クウェイト訪問もその一環である。我々は、クウェイトを政府レベルでも国民レベルでも非常に近い存在と見ており、イラクの関心事はクウェイトの関心事でもある。従って、我々はクウェイト首長、皇太子、政府、国民に現在のイラク情勢を伝えることが必要であった。また、クウェイト側に対し、イラクの今後の方向性及び両国の懸案事項の解決に向けた我々の決意を伝え、安心感を与えることが必要であった。対クウェイト関係に限らず、イラクと近隣諸国は、懸案事項を解決し、関係正常化の新たな視点が必要である。
2. サバーハ首長の反応：サバーハ首長の姿勢は、将来に対する前向きな視点に満ちていた。また、イラクの一体化と安定の重要性に何度も言及し、イラク国民を苦難から解放し、イラク一体化の達成に向けたクウェイトの支援を表明された。
3. 両国間の懸案事項：
 - (1) クウェイトへの賠償金の支払い額を石油収入の5%から1%にするとのイラクの申し出について問われ) 個人的見解であるが、懸案事項は国際社会に委ねられるべきではなく、一つの家族の中で解決されるべきと考えている。両国は信頼関係を構築すべき段階にあるが、イラク・クウェイトそれぞれに見解があり、我々が望む安心・同胞関係のレベルには達していない感情が存在する。
 - (2) (イラク・クウェイト間の領土問題について問われ) 本件は政治的問題ではなく、技術的な問題である。イラクはクウェイトのみならず、イランや他の近隣諸国とも同様の問題を抱えているが、イラクは未だ安定しておらず、我々の努力不足もあるだろう。最終的解決には、両者による努力が必要である。
 - (3) イラク新政権はイラク・近隣諸国間の問題に取り組むことを願っている。しかし、現在のイラクには近隣諸国との関係の在り方において、このような戦略が存在していない。現在、我々は依拠すべき明白な政策を追及している。

4. イラク要人のサウジ訪問：イラク要人のサウジ訪問はもっと早い時期に行われるべきであった。サウジ国王の発言は明確で、サウジはどの勢力とも同距離にあるということだ。サウジの目的は、イラクへの干渉ではなく、イラクとの協議及び意見交換である。最終的決定権がイラク人にある限り、このような協議・意見交換は内政干渉にはあたらない。

5. イランの影響：近隣諸国がイラク情勢及びイラク新政権の樹立の行方に大きな関心を抱くのは例外的状況であり、過去にはなかった。イラクにおけるイランの干渉は明らかになりつつあるが、我々は他国間の問題の決着にイラクが利用されることを望んでいない。イラク要人のサウジ訪問が、イラク国内でのイランの影響力とのバランスを取ることを目的としたものではないと考えている。